

DEW
stream 2012

Planning, Design, and Consulting
SHIMIZU CORPORATION

vol.72

SHIMIZU CORPORATION HEAD OFFICE	02 - 05
SMBC GOFUKUBASHI BUILDING	06 - 07
SHIMBASHI I MARK BUILDING	08 - 09
NEW YAMATANE BUILDING ANNEX	10 - 11
Astellas Pharma Inc. Kashima R&D Center Welfare Facility	12 - 13
Hirose Electric Co., Ltd Yokohama Center	14 - 15
Nisshin Milling Museum	16 - 18
RITSUGYOSYA BUILDING	19
NANZAN UNIVERSITY NAGOYA CAMPUS BUILDING R	20 - 21
Salesian Sisters Oita Casa San Giuseppe	22 - 23
GRANDEMAISON MOMOCHIHAMA OCEAN & FOREST	24
ESTATE MINAMISUNAMACHI	25
HAMAMI BUILDING	26
Harajuku Jingu no Mori	27
ND2 PROJECT	28 - 29
CD PROJECT	30 - 31
THE GOTOH MUSEUM RENEWAL	32 - 33
UEDA HOSPITAL	34
YUME-CLUB	35
MUSASHI GAKUEN ARCHIVES	36
FUKURACIA TOKYO STATION	37
remm SHIN-OSAKA	38
TOKYO MOKKOUJOU COLLABORATION STUDIO	39
MUSASHI GAKUEN MAIN GATE RENEWAL	40
REITAKU STUDENT PLAZA HANAMIZUKI	41
La maison HITOTOKI	42
EXPASA DANGOZAKA	43
INHERIT JAPANESE TRADITION	44 - 45
GLOBAL CHALLENGE	46 - 47
eco BCP	48
CAMPUS PROPOSAL / AREA A REDEVELOPMENT PROJECT	49
COMPETITION	50
CG VISUALIZATION	51
stream DEW CONTAINER PROJECT	52 - 53
DATA OF WORKS · stream DEW MEMBER	54 - 57

Planning, Design, and Consulting
by SHIMIZU CORPORATION + Field Four Design Office + PD SYSTEM

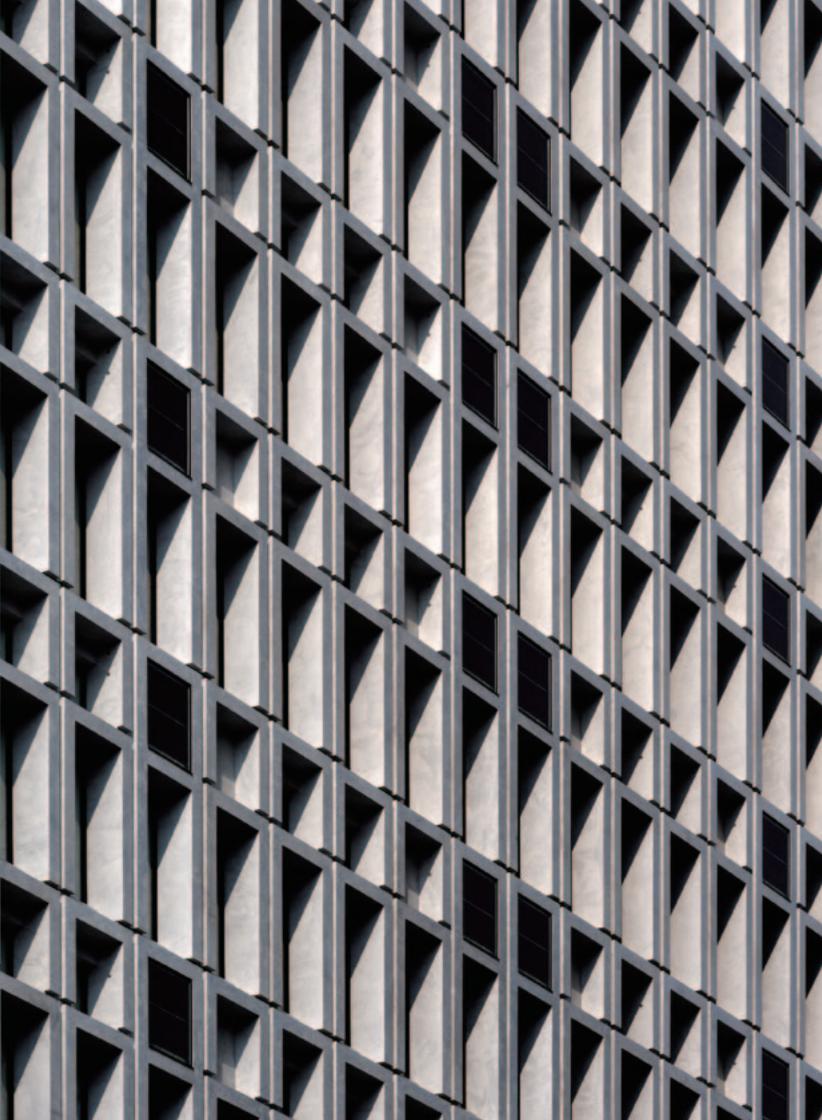
DEW

stream 2012

特集：近作プロジェクト

vol. **72**

清水建設本社	02 - 05
三井住友呉服橋ビル	06 - 07
新橋アイマークビル	08 - 09
ヤマタネビル新館	10 - 11
アステラス製薬加島事業場厚生棟	12 - 13
ヒロセ電機横浜センター	14 - 15
製粉ミュージアム	16 - 18
立業社ビル	19
南山大学名古屋キャンパスR棟	20 - 21
サレジオンシスターズ 大分聖ヨゼフ 修道院・聖堂	22 - 23
グランドメゾン百道浜オーシャンアンドフォレスト	24
エステート南砂町	25
浜二ビル	26
原宿 神宮の森	27
ND2プロジェクト	28 - 29
CDプロジェクト	30 - 31
五島美術館 改修	32 - 33
母と子の上田病院	34
館山ケアセンター夢くらぶ	35
武蔵学園記念室	36
フクラシア東京ステーション	37
レム新大阪	38
東京木工場コラボレーションスタジオ	39
武蔵学園正門周辺再整備計画	40
麗澤ステューデントプラザはなみずき	41
ラメゾン ひととき	42
エクスパース 談合坂	43
日本の伝統の継承	44 - 45
海外における設計市場の開拓	46 - 47
eco BCPへの取り組み	48
キャンパス プロポーザル/A地区再開発事業	49
コンペティション	50
建築空間イメージの可視化	51
stream DEW コンテナ展	52 - 53
作品データ・stream DEW 委員一覧	54 - 57



SHIMIZU CORPORATION HEAD OFFICE

清水建設本社

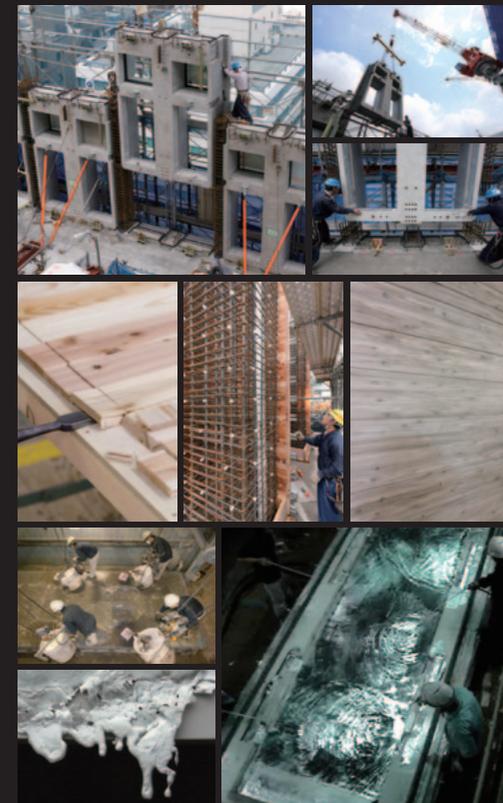
プロセスの記憶

型枠をたたく音、職人たちの声、空間に充滿する熱と林立する仮設の群。建設途中の建物は巨大なエネルギーに包まれている。やがて建物ができあがるにつれ、ついさっきまで空間の隅々を満たしていたものは跡形も無くなり、最後に論理のような建築だけがポツリと残る。無数の造り手たちのプロセスを継承する建築、もっというんなものを受容する建築があってもよい。

このオフィスは鉄筋コンクリート免震構造である。外壁のPCフレームは人の手により石垣のように組み上げた構造体だ。組み上げるのに必要な仮設の痕跡などは、プロセスの表現としてそのままにしてある。このフレームの型枠や、エントランス周辺の素材としてアルミキャストが使われている。キャストはその形態により鑄造速度や温度など、製造方法が異なる。ザラリとした肌、どんよりとゆらく表面、地層のように積層する風合いなどは、アルミが液体から固体に変わる瞬間に現れる。また低層部のコンクリートは木工職人たちが削り、磨いた杉の本ざね型枠と、浸透性の剥離剤により、木の色と木目を写し込んだ。用を果たし取り去られた型枠は、木の家具や壁に受け継がれている。伺い知ることができるのは、この建築の装飾である。建築というのは潜在意識に語りかけるものだとすると、現物を前にするとき、見えるものや解釈は人の価値観によって様々だろう。けれど建築が残ることにより、プロセスの記憶は全体として継承される。

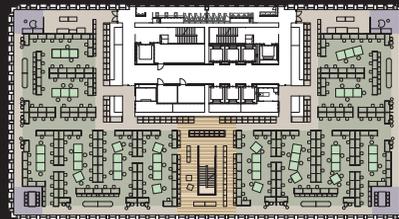
LEED GOLD認証(NC Ver2.2版)

見城 辰哉





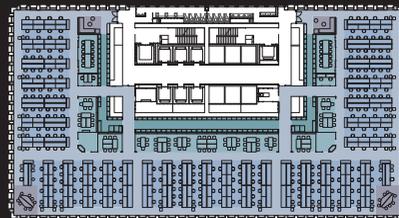
フレキシブル・ワークスペース



仕事のプロセスをレイアウトする

設計はプロジェクトごとにチームで仕事をする。アイデアを出す、検討する、まとめるといったプロセスの各フェーズにおいて、個人の集中作業や居合わせた人との交流、メンバーとの交流といったさまざまなコミュニケーションスタイルがとれるよう、ひとつのユニットをつくった。

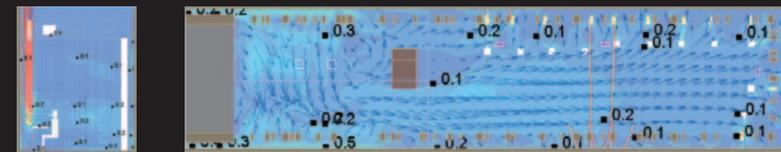
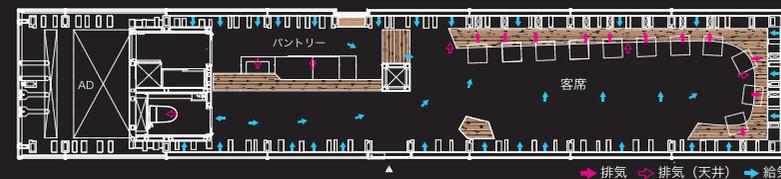
竹内 雅彦・国立 篤志



変化に対応する

基準階のオフィスは、ワークエリア・コラボレーションエリア・サポートエリアからなる3層構成のゾーニングとした。ワークエリアでは集中作業を効率よく行う。ワークデスクは長さ3,600mmとし、仕事の役割に応じて2人掛、3人掛を自由に選択できるようにしチーム編成が変化しても柔軟に対応する。組織替えに伴うデスクレイアウトの変更は生じない。

大田 道広



風速分布シミュレーション

はやしのなかのカフェ

タバコとコーヒーは切っても切り離せないと感じていたが、このプロジェクトを通して実感した。このカフェは分煙をテーマにした設計競技の最優秀案を具現化したもので、口からふわりと吹き出されるタバコの煙を、はやしのように林立する柱から吸い取ってしまうという計画である。隣の人に煙が流れない最適な airflow をシミュレーションや実験で確認しながら調整した。杉の柱(=はやし)が杉板型枠のコンクリートと呼応しながら、オフィス街の中に柔らかくつるぎの場をつくる。木におい、コーヒーのかおり、タバコの気配。オフィス街の新しいリフレッシュ空間。

加藤 万貴



06
vol.172



SMBC GOFUKUBASHI BUILDING

三井住友銀橋ビル

テクニカルアプローチとポッセ



前川國男のテクニカルアプローチの代表作にして戦後中層オフィス建築のマイルストーンとなった旧日本相互銀行本店ビル(1952竣工、日本建築学会賞受賞)の建替えである。

現代の事業上の用途・機能を起点とし、近代建築の五原則のモダナイズにより、銀行建築としての諸機能を備えた建築を構築した。

工法はユニット化・工業化・乾式化を基軸として旧建築の設計思想に現代の価値観を重ね、通風機構を有したダブルスキンとソフトファーストストーリー制振については、特許出願レベルの新たな形式とした。また建築素材とその納まりは、高質かつ密度あるものとしている。

前川の著名作品としては初の解体建築。2001年に統合した三井住友銀行としては初めてのゼネコン設計施工発注。そして当社としては、メガバンクの基幹ビルの設計は明治7年、為替バンク三井組以来という、歴史的な事業であったが、銀行の技師陣、前川事務所と会社の、熱意が結晶した建築である。

定久 岳大



SHIMBASHI i MARK BUILDING 新橋アイマークビル

土地の記憶と時代のニーズに応えたテナントビル



新橋駅SL広場前、という好立地に建つ、オフィス・店舗の複合ビル。事業主・設計・施工が当社という投資開発案件である。

外装は石打込みPCフィンでファサードに奥行を持たせ、西日の遮蔽による熱負荷の低減を行うと同時に、オフィスビルとしての風格を持たせた。また、i-emsやLED照明、自動調光システム、ドライミスト、壁面緑化など、自社保有技術を適材適所に用いることで、敷地条件が厳しい中でCASBEE Sランクを実現した。

オフィス街である外堀通りと、昔ながらの飲食店が立ち並ぶ新橋栄通りを繋ぐエントランスホールは、「レンガ通りと鉄道」という新橋の歴史的イメージをモチーフとし、テラコッタと黒いスチールを用いて土地の記憶を表現した。

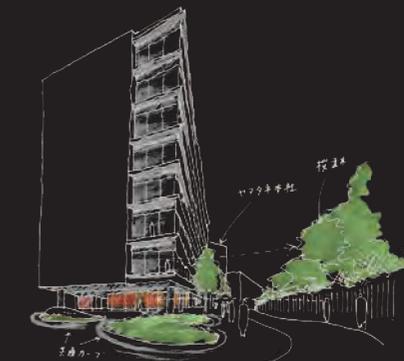
左近允 陽子



NEW YAMATANE BUILDING ANNEX

ヤマタネビル新館

建物・敷地の内外をシームレスに繋ぐ

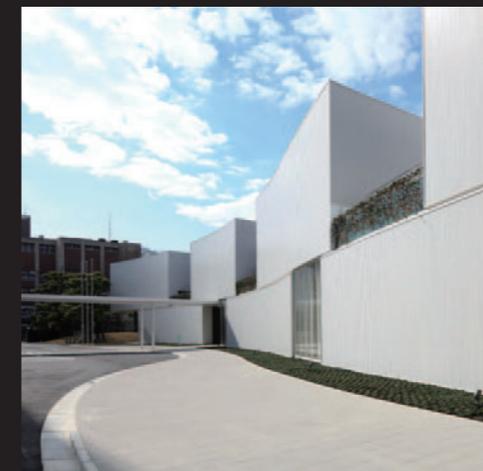
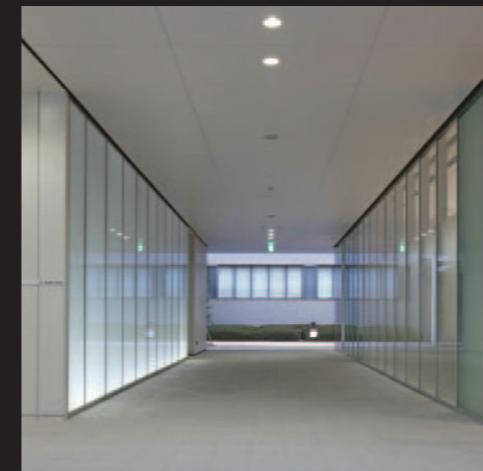


オーナー本社屋の隣地に計画された賃貸オフィスビル。敷地の北面には、豊かな並木が連なる。

テーマは、建築・インテリア・ランドスケープ・敷地の内外の空間全てをシームレスに繋げること。

日常の中で、建物を使う人達が、自然や季節感を何気なく感じると同時に、隣接するオーナー本社屋に日々通う人々が、ささやかな誇りを抱くことを願う。

村上 又三郎



**Astellas Pharma Inc.
Kashima R&D Center
Welfare Facility**
アステラス製薬加島事業場厚生棟

JUNCTION つなげる建築

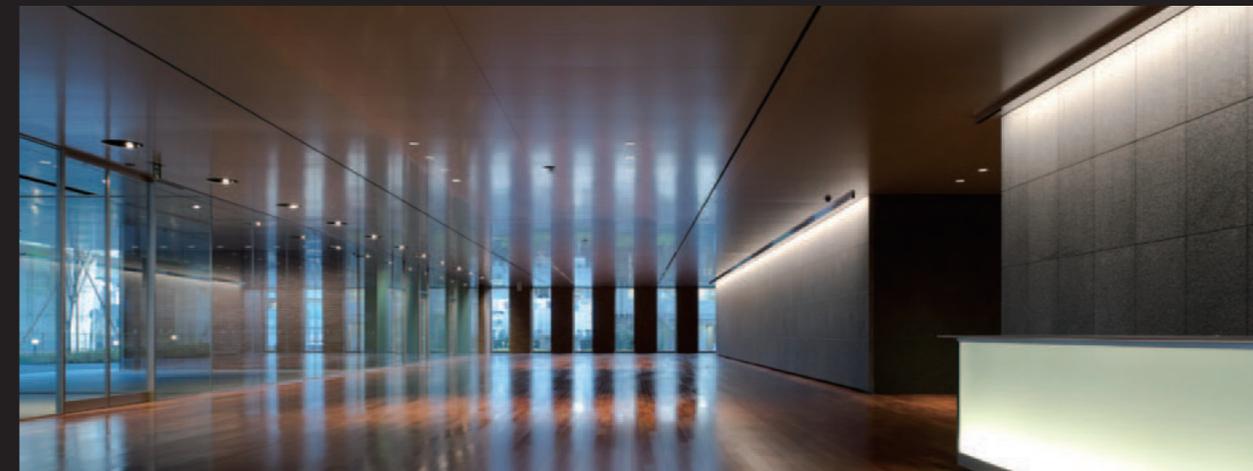


アステラス製薬の国内主要研究拠点の一つである加島事業場の厚生棟建替え計画。研究者間のコミュニケーション活性化を主題とし、研究者を「動かし」「集める」配置・動線計画を行なった。

建物を既存研究棟群の中央に配置し、これらを繋ぐように渡り廊下や建物内貫通通路(パサージュ)を設置することで、閉鎖的になりがちな研究者の移動を促す。さらにこの動線が交わる建物の中心にマグネット効果の高い食堂・カフェを配置し、コミュニケーションを誘発、新たな発想が生まれる空間とした。

白い箱を積み重ねた外観は研究所の新しい顔となり、曲線を描く壁が来客者を柔らかく迎える。屋上に配した5つの庭園が建物のボリュームを適度に分節し、この屋上庭園から採り込まれる光や風があふれる潤いのある建物となった。

加地 則之
阿部 香穂里



Hirose Electric Co., Ltd
Yokohama Center
ヒロセ電機横浜センター

「Flat/Flexible」「Connect/Communication」

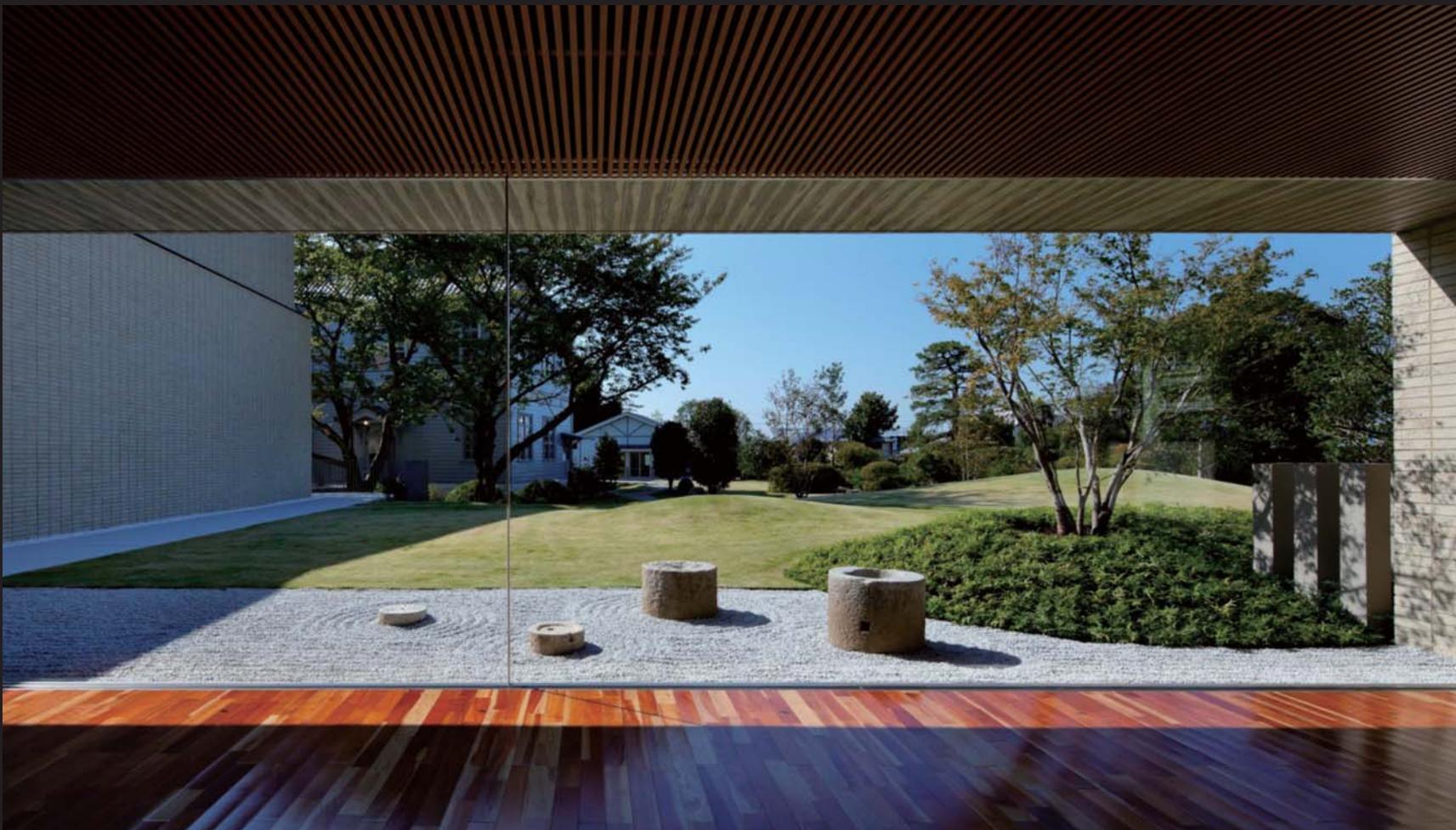


最先端のコネクタの開発拠点である。市内に分散していた開発部門を集約し、あたらに海外を含む営業部門も一つ屋根の下に入居することで、更なる開発力の強化を目指した。

設計コンペにあたって提示されたテーマは、「100年を超えて愛され生き続ける研究所」。敷地区のみが示されて、既存の枠にとらわれない提案が求められた。

100年建築というテーマに対して、性能面はこれまで確立してきた長寿命化技術の土台がすでにあり、今回はそれを一歩前進させる形で、200年仕様のコンクリートや、更新が容易なサッシュティールの採用などのさらなる長寿命化技術にチャレンジすることができた。

悩んだのは、研究施設という機能。現状の使い方を徹底的に調査し、お客様と一緒に将来の可能性を考えることから始まった。そこから「Flat/Flexible」「Connect/Communication」という2つのコンセプトを抽出し、事務室と試作作業室のどちらにも転用できる設備仕様や、動線周りに偶発的なコミュニケーションを誘発するしなやかな空間づくりなど、研究施設として長く使い続けられる空間づくりを目指した。



Nisshin Milling Museum

製粉ミュージアム

歴史的建築・庭園の再生



発祥の地、館林
明治33年に館林製粉として創業した日清製粉グループ本社が、発祥の地、館林に、館林駅西口駅前広場整備の一貫として『製粉ミュージアム』をオープンする。『本館』は旧工場の木材を再利用して明治43年に創建された歴史的建造物で、免震リニューアルした『本館』と日本庭園が、歴史そのものであり未来への遺産となる。

製粉ミュージアムの情報発信

本館が日清製粉の歴史・伝統の展示、新館は小麦製粉の昔と今、そして未来を知って、感じてもらう施設であり、団体向けオリエンテーション等のできるプレザルームや展示室で構成している。意匠上は本館を主とし、新館は静かに佇む建築を意図した。ゆったりできる建築を目指し、レンガタイルや木の素材感を生かしたシンプルな空間とした。

館林駅前の公園としての回遊式庭園

旧庭園は「三光の庭」と称され、四個の石臼が配されている。今回の庭園拡張に際し、既存の桜も生かしながら、ロビー近景の枯山水にも石臼を配し、起伏ある芝生の回遊式庭園を木立で囲んだ静かな庭園を意図した。

鈴木 健夫
関 雅也

Nisshin Milling Museum

製粉ミュージアム

木造免震リニューアル



当社で初めての試みとなる『木造免震リニューアル』を採用し、建物直下の免震基礎を築造するために上部木造建物の曳家(ひきや)を行った。

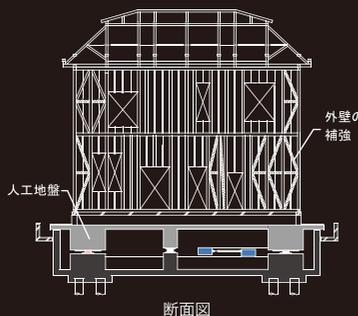
軽量な木造建物の暴風対策や免震効果を高めるために400トンの人工地盤を構築する等各所で工夫を行い、上部木造部分の構造補強を外壁(下見板貼り)の下地補強のみとしている。

漆喰壁を含む内部の建築意匠は創建時のままで使用することが可能となり、また再利用した既存布基礎煉瓦は旧東京駅や日本銀行旧館に使用された日本煉瓦製造の製品であることが工事中の調査で判明した。免震リニューアルは公的な性能評価を受けた上で館林市の耐震改修計画認定を取得し、構造性能を確認する目的で補強外壁を模擬した実大架構実験を実施した。

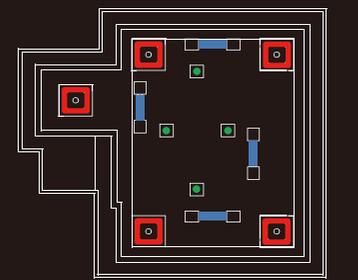
貞広 修



2階展示室



断面図



免震階配置図

● 復元用積層ゴム
● 減衰用オイルダンパー
■ 弾性すべり支承



曳家工事状況



実大架構実験



外壁の補強



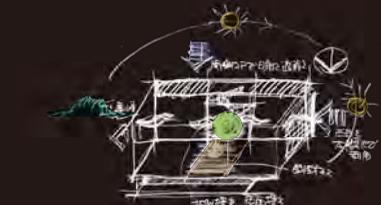
LED照明(全館)
自然採光
屋上太陽光パネル
壁面太陽光パネル
ダブルスキン
カーテンウォール
自然採光
立山連峰
自然通風
フロアフロー
井戸水
井水 空調利用
井水槽
自然通風
屋上緑化



RITSUGYOSYA BUILDING

立業社ビル

建築・設備の一体的計画/地域No.1のエコビル



富山を拠点に活動する企業の本社ビル。「地域でNo.1のエコビルを」クライアントの要望はコンペ段階から一貫していた。通常の建築計画に、単純に省エネ設備を付加するのではなく、建築・設備が一体となった総合的な計画により、その要望に応えた。

西側の建物正面ファサードは、この規模の建築としては稀なダブルスキン外装を採用。アウトースキンに太陽光パネルを組み込み、電力の供給や西日による熱負荷を低減するだけでなく、地域の人々に対し、企業姿勢を伝える象徴ともなっている。建物中央部北に配置したライトコートは、執務室に熱負荷の小さな天空光による採光と、2面通風を確保。且つ、社員同士のコミュニケーションの場としても機能する。

その他、立山連峰を水源とする豊富な地下水を利用したフロアフロー空調、調光機能付きLED照明、屋上の太陽光パネル等により、CO₂50%削減を達成。CASBEE-Sランク外部認証を取得した。

水潤 亨

第4回サステナブル建築賞
第24回日経ニューオフィス賞 中部ニューオフィス推進賞
平成22年照明普及賞

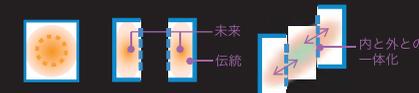


NANZAN UNIVERSITY NAGOYA CAMPUS BUILDING R

南山大学名古屋キャンパスR棟

外皮と内皮からなるツインタワー

外皮・・・人の生活を守るもの・歴史に裏打ちされた伝統



内皮・・・人が学び・研究し、交流する場
(学生が新たに学び、「未来へ発展」し、はばたく場)

高台のキャンパス内の森に囲まれた中に位置するR棟は、「歴史と伝統」を重んじながら、「希望と未来」を詰め込んだ新しいキャンパスのシンボルとして提案を行った。

ツインタワーとすることで、2棟の間にアトリウムや、講堂、大教室など学生交流の中心となる空間を設け、外観は既存校舎の伝統を重んじた構成とした。インナーファサードは新しい大学のイメージを表現した構成としている。

既存建物の伝統を受け継いだ形状を、「打放しのSRC柱」・「S造の大梁の架構」・「プレストレスのPC梁圧着工法」・「PC梁の弾性接着タイル貼」とすることで継承している。

2棟間の地下に配置した500人ホールは、この地にあった森の木立のイメージを天井に形にすることで、記憶の再生を図っている。

加登 剛司



**Salesian Sisters
Oita Casa San Giuseppe**
サレジオンシスターズ 大分聖ヨゼフ 修道院・聖堂
祈りつづける場所



1952年開設以来、養護施設の子供と共に過ごし、祈りを捧げてきた修道女の生活と祈りの場である。

永く愛されてきた修道院、聖堂の建替工事であり、既存ステンドグラスなどの移設工事を行った。

静かな町でたくさんの自然に囲まれる建物として、銅板葺きの屋根、せっき質タイル、無垢木材など自然素材を大切に、100年建築を計画した。

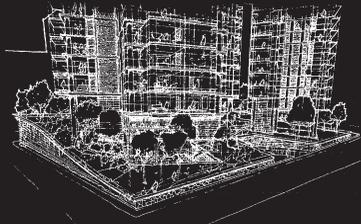
約3年の年月を経てたくさんの人々の想いがこもった建物を創りあげた。

伊野 奏

**GRANDEMAISON MOMOCHIYAMA
OCEAN & FOREST**

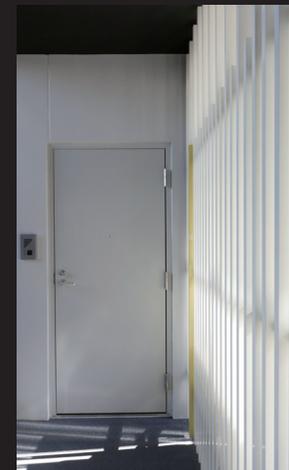
グランドメゾン百道浜オーシャンアンドフォレスト

オーシャンビューと森の癒しを享受できる住まい



福岡の百道浜という海辺の町に計画した分譲住宅。敷地は北側至近に海を臨み、福岡の中心部からもほど近い恵まれたロケーションである。2棟をつなぐ低層部は〈里山を中心とした緑の丘の創出〉をテーマとした、緑豊かな人工地盤上に開放された空間とし、周辺の並木道とネットワークを形成することで、街の潤いや活性化に寄与している。配置・平面計画は全室「角住戸」にこだわり、十字形の平面の2棟とし、その2棟を約60度を開くことで、多くの住戸に贅沢な海の景色を取り込んだ。外観は様々なスケールの視野に呼応する3層構成のデザインを採用。基壇部は開放的な2層分のピロティーとし、建築の量感を和らげ、歩行者に豊かな緑を印象づけ、中層部は大きなガラス面と水平庇で構成し、見上げると空を映しこみ時々刻々と表情の変化を見せる。頂部は軒を張り出し彫りの深い表情を与え周囲の高層建物と個性的なスカイラインを競っている。新しい街とともに時を刻み、多くの記憶と共にある「住まい」となる事を願う。

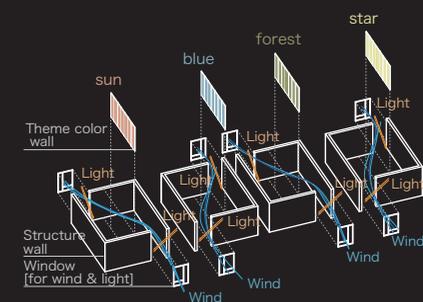
畝本 祐司



ESTATE MINAMISUNAMACHI

エステート南砂町

居住者のつながりと環境意識が芽生える住まい



若い夫婦もしくは一人暮らしの居住を想定した16戸の賃貸住宅である。賃貸集合住宅における居住者相互のコミュニティ形成には難しい側面もあるが、3.11以降多くの人が安全な生活の基本に人と人との「つながり」が必要なことを再認識したのではないだろうか。

建物は2枚のL型構造壁を向かい合わせ住戸を作り、それを反転しながら水平に連続させることで住棟を構成し、豊かな通風・採光を確保している。モノトーンの建築を背景に、forest、starといった自然からインスピレーションされた8色のアイコンを建物入口から住宅まで通じる要所に与えることで、新しい生活への期待を高めるとともに、居住者間の共有意識や環境に対する気付きが芽生えることを意図した。

SDA賞2012入選

鈴木 かおり

HAMANI BUILDING

浜ニビル

小さくて新しいテナントビルの価値



都心に建つテナントオフィス。小さいりの新しい価値や魅力を見出し、周囲のテナントビルに勝る競争力を高めることを目指した。

構造フレームを300mmまで極小化することで、柱のない隔々まで使えるオフィスとし、敷地を最大限有効に活用できるよう工夫した。極小断面フレームがつくるスケール感が、見慣れたオフィスと少し違う空間の広がりや軽さをもたらす。構造体は四周ぐるりと廻りすべての方位に対して等価に開く裏表のない構成で、避難階段やバルコニーが日常の生活の場として積極的に利用できる環境となるよう配慮している。また、目地や隙間に設備機能を集約し、「兼ねる」ことで無駄のない美しさを追求した。

窓が大きいこと。外が近いこと。すっきりしていること。小さな価値を積み重ねたオフィスの空間が、ここで働き一日の大半の時間を過ごす人にとって、小さくても広がりのある、身近な生活の場所となることを願っている。

2012年度グッドデザイン賞

末森 憲義
清水 壮輔



Harajuku Jingu no Mori

原宿 神宮の森

場所の持つポテンシャルを最大化する



圧倒的な自然を眼前に抱く、駅前の絶好の立地。限られた間口の敷地と件に対し、ただの看板建築では無い、オフィスでもあり、商業施設でもある複合建築の新しいあるべき姿を追求した。

高い事業性を実現する空間構成をベースに、仕掛けとして組み込んだ、奥行きを持たせた外皮とアプローチの空間。奥行き80cmのダブルスキンは、単なる環境負荷低減の装置では無く、「窓」であると同時に、ショーケースとしての「顔」でもある。奥に引き込んだアプローチは、林立する柱とSUSメッシュの間から光が差し込み、木立の中を歩くように、奥へ、奥へ、と人を誘う。そして四季を彩るライティングが、緩やかに空間の表情を変えていく。

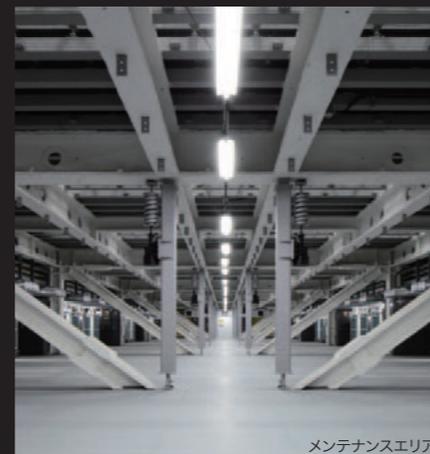
スケルトン建築の場合、どのような使い方になったとしても共存できる仕掛けが建築の骨格として必要である。それが例え小さなスケールだとしても、固有の建築から発露されるメッセージは強いものになる。神宮の森を眼前にしたこの建築が発するメッセージは、やはり自然が持つような、微細な変化をもたらすものでありたいと考えた。

第46回SDA賞入選

佐藤 剛也



CPUエリア



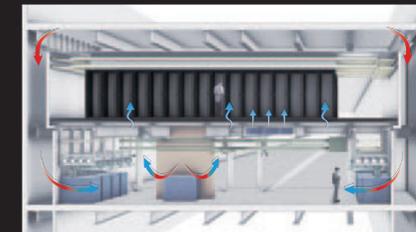
メンテナンスエリア



ND2 PROJECT

ND2プロジェクト

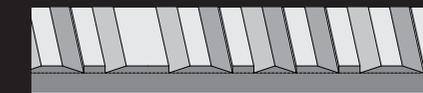
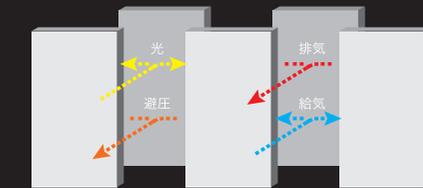
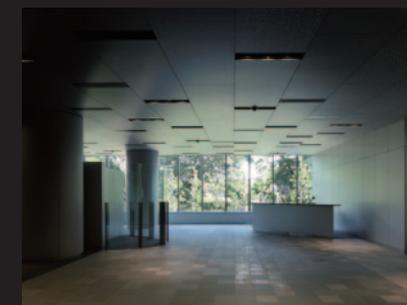
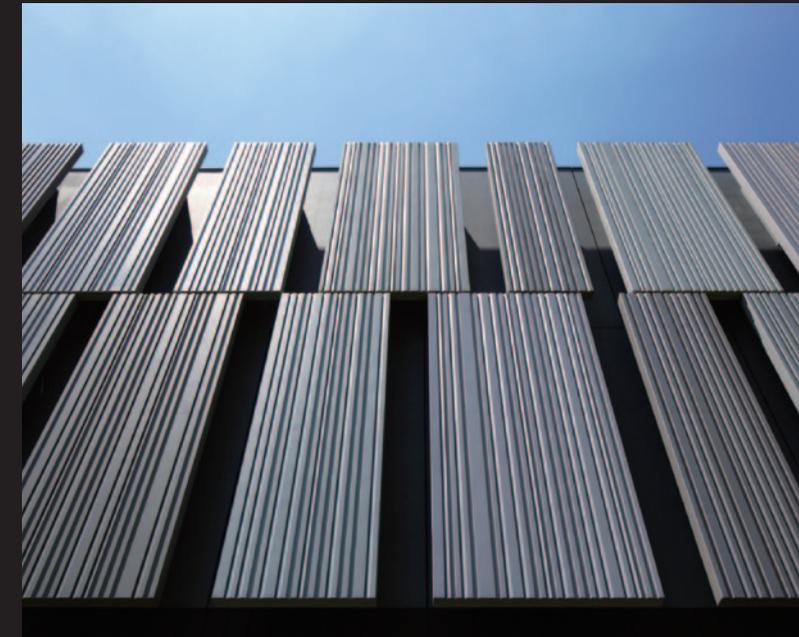
新世代ダブルデッキシステムDC



情報化が加速的に進む現在、信頼性・将来性・環境性・事業性すべてにおいて優れたデータセンターが求められている。本プロジェクトは、サーバー室を上下に分割し、サーバー直下に設備機器等を配置した「ダブルデッキシステム」を開発。全てのニーズに合致したデータセンターである。

大きな床下空間は冷気の搬送動力を低く抑えると同時に、動線を完全分離した明確なセキュリティ、容易なメンテナンスを可能とした。また、高負荷サーバーをフレキシブルかつ効率的に冷却するタスク&アンビエント空調や、上下震動を制御するダイナミックスクリュウ等、最先端技術が盛り込まれている。

外気冷房用空気取込みスペースには日射制御のためのルーバーを設置、ネットワーク情報の流れをイメージした1/fゆらぎをファサードに表現した。執務空間では大庇と組合せた自然換気カーテンウォールを開発。エントランスホールは、データ高速処理をデザインモチーフとしながら、不燃木による従来のデータセンターにはない温かみと木漏れ日のような明るい空間を創出した。内外において環境に配慮したデザインとしている。



C.P.G. (Computer Programing Graphic)
自然乱数を用いたシームレスで柔らかなグラデーションパターン
の天井は、木漏れ日のように外部の緑と光を柔らかく反射し、エントラ
ンス内部に取り込む。



CD PROJECT CD プロジェクト

プリズミックエコロジカルウォール

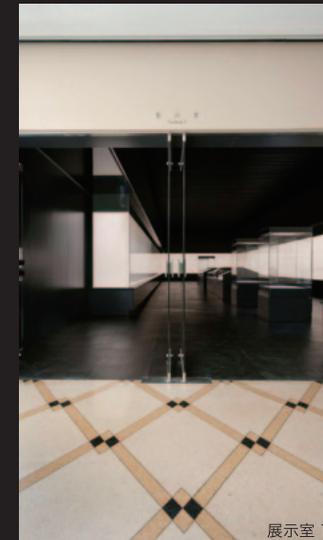


都心近郊に建つデータセンターの外観デザイン
データセンターとしての機能と景観及び近隣住宅地
への配慮との両立が意図されている。

設備システムと一体となった外壁
街道の宿場町であったこの地域の光・風を通しプ
ライバシーを守る大和塀を引用し、データセンターで
必要な外気の流通とセキュリティを確保しつつ自然
光を取り込み、100mに及ぶ長大な壁面に変化と素
材感を持たせ、風景に溶け込む外壁とした。

プリズム → プリント
周囲の自然がプリズムによってデジタルに分解され
た外壁。プリンターのインクのように周囲の自然を
写し込む10色の外壁として、建物のアイデンティ
ティを生み出している。

壁面のリップデザイン
リップに角度を設け、時間の経過、視線の推移によっ
て表情を変える壁面。PC型枠に一種類の不等辺三
角形の目地棒をピッチと向きを変えながら配置する
ことで、多様な表情を持たせている。



展示室 1



展示室 2



THE GOTOH MUSEUM RENEWAL 五島美術館 改修

吉田五十八建築の継承と保存



1960年撮影

吉田五十八設計の既存美術館は五島美術館のシンボルとして所蔵の美術品同様である。竣工から半世紀を過ぎた建物の機能的整理・再構築・新技術の導入を「さりげなく」、「オリジナルデザインを生かす」かたちで行うことがテーマとなった。美術館半世紀の歴史の一つ一つのキズ、劣化等の風合いも尊重してオリジナルを可能な限り残す計画とする一方で、美術館の基本となる断熱・防水・設備性能向上については徹底的に対応した。

展示室はオリジナルの構成を変えてはいないが、現段階での最新展示設備にて更新している。既存建物は展示室が一カ所のみで手狭であった為、旧集会室廻りをコンバージョンすることで展示室を三カ所とした。これによりホールを挟む形で展示室を配置でき寝殿造りの建築形を生かした道行を楽しめる展示室構成となった。特に展示室2は既存開口を生かしつつ完全遮光～障子による段階的な自然採光が可能な新しい展示を試みている。

「吉田五十八建築」という、五島美術館の大切な「伝世品」を次の半世紀へと伝えるお手伝いが出来たならば幸いである。

UEDA HOSPITAL

母と子の上田病院

手作り感の演出

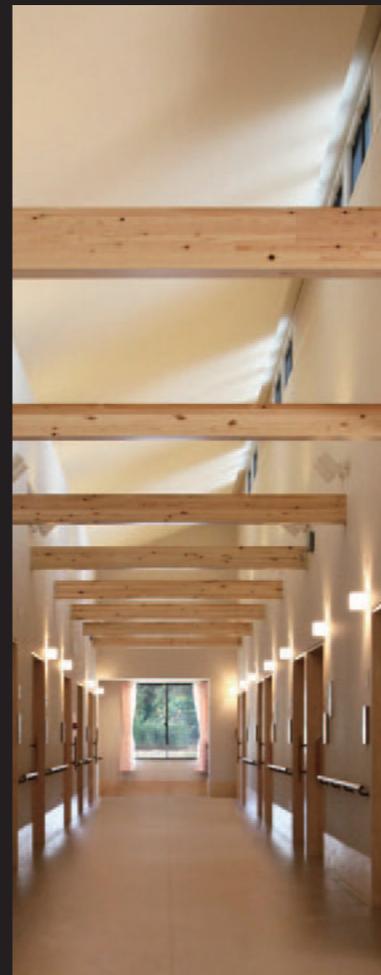
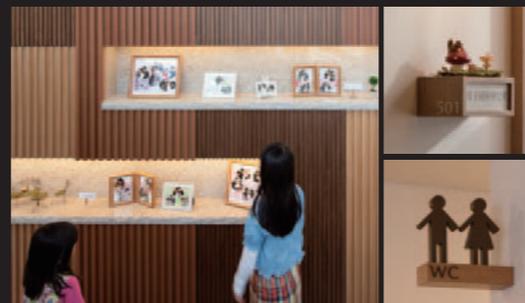


神戸三宮に1948年から続く、産婦人科・小児科病院の建替え。敷地内外に分散する既存建物の運営を継続しながら、6ステップに分けて建て替えた。上田病院の歴史の中で築き上げられた「上田病院らしさ」を表現することが求められた。

街路樹の緑を取り込み、格子によるやさしい光を感じるファサード空間。木の温かみを大切にしたエントランスホールや外来待合。家族も寝泊まりでき、病院機能を隠した病室やLDRなど、母と子とさらに家族が集うことを意識した空間づくりを行なった。

さらに、生まれた赤ちゃんの写真や季節の小物をディスプレイできる空間を多岐に設け、手作り感のあるあたたかい雰囲気を出し、病院とともにつくることで、「上田病院らしさ」を表現した。

小原 博之
乗本 昌子



YUME-CLUB

館山ケアセンター夢くらぶ

里山の風景のある暮らし



夢くらぶは安房館山で暮らす介護を必要とする高齢者に在宅復帰を目指し、リハビリや介護サービスを提供する介護老人保健施設である。18床の増築棟を、地域の高齢者のすまいとして、慣れ親しんだ風景とのかかわり合いを大切に計画した。

勾配屋根のフォルムがホテルの飛び交う里山の風景にとけ込む。木造の架構をそのままインテリアのリズミカルなアクセントにする。木のもつあたたかさや柔らかさは、高齢者のすまいに欠かせない。大きな窓から飛び込む田んぼや畑の風景、勾配天井の隙間から差し込み移りゆく光。ゆったりと時間が流れ、普段のくらしがつかっていく。

息子の様な医師、孫のようなスタッフに囲まれ、木の香りに包まれたデイルームに笑顔が溢れる。施設のなまえが「和々(にここ)」と名付けられた。

後藤 真吾
大旗 祐



MUSASHI GAKUEN ARCHIVES

武蔵学園記念室

空間がたえる学園の歴史



この建物は、1928年（昭和3年）に竣工した、建築家・佐藤功一氏の設計による武蔵学園大講堂である。今回、学園の歴史資料を収集・展示し、卒業生の語らいの場となる記念室の改修を行った。以前の改修によってつくられた間仕切り壁を撤去し、創建時の会議室の面影をできるだけ再現し、資料だけでなく空間の雰囲気そのものが学園の歴史を伝えることを目指した。床は、既存絨毯の下に敷いてあった創建時のものと思われる板張りに習い、フローリング敷とした。壁面の白と、床材や什器の濃いブラウンのコントラストによって、アカデミックな雰囲気をデザインした。展示物と歴史的空間のみに注意が向けられるように、照明や設備は最小限の表現として空間に溶け込ませた。

内田 淳
並木 良一
萩原 康平

2012年度グッドデザイン賞
インテリアプランニングアワード2012入選
DSA空間デザイン賞2012入賞



FUKURACIA TOKYO STATION

フクラシア東京ステーション

森の中の会議室



東京駅直結の貸し会議室。会議室利用者の動線を考えると、縁にあまり触れずに会議室内まで来ることになる。

それを考慮し、ここに入ると自然光や緑を感じ、リフレッシュして会議に臨める空間を目指した。

プランニングでは、今回ラウンジ(Park)を各会議室ごとに設けるという試みがあり、利用者を招き、もてなす場をつくることと、遮音を兼ねたバッファーとしての役割を持たせた計画とした。

造作家具は東京木工場で特注で創り、人が触ったり、座ったり直接触れるものなので木の無垢材を使うことにこだわった。アートとサイン部にはヒノキを使い、香りのリラックス効果も考慮した。エコという面も意識し全て間伐材を使用した。

大久保 敏之
藤井 誠

remm SHIN-OSAKA

レム新大阪

NUDE + WATER



JR新大阪駅直結のホテルである。南面の室内からは、東西に駆け抜ける新幹線や在来線のシルエットがダイナミックに見渡すことができる。

客室幅いっぱいの開口部からは、景色のみではなく季節や時間の移ろいが入り込み、寢室やバスルームを刻々と満たしていく。

自然の創造力が入り込む条件が整った室内で我々が仕掛けたことは、それに美しく染まることであった。

自然の静寂をテーマとした、自由・水・大地のコンセプトカラーが白いバスとリネンを引き立たせ、眠りをデザインし、水でチャージをする。アプリケーション(機能・家具)は必要な時に必要なものだけが姿を現し、自然の移ろいに染まる。

この二つを実現することによりゲストは、自然と一体になり眠る。

志村 美治
井筒 英理子



TOKYO MOKKOUJOU COLLABORATION STUDIO

東京木工場コラボレーションスタジオ

みる・ふれる・かんじる



130年の歴史を持つ東京木工場は木場の一面に位置する。

このスタジオは、お客様に本物の木を見て、触れて、動かしていただくことにより、素材としての可能性を追求してもらうことを目的とした。

4つの専門性をもったスタジオによるシミュレーションや大判で天然木等体感することによる価値感の共有を行うことができる。

EGGと名付けられた楕円につつまれたスペースは素材やアイデアをそれぞれの立場で可能性を追求し、話し、物を造り出すコラボレーションスペースとなっている。

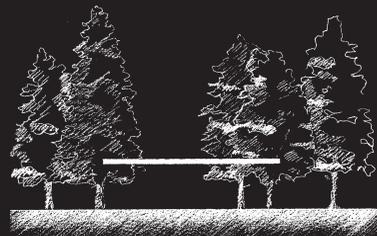
志村 美治
石津 麻衣

若手設計者特集 若手設計者の豊かな創造力やエネルギーを、ベテラン設計者との確実な協働体制のなかで高品質な建物として創り上げています

MUSASHI GAKUEN MAIN GATE RENEWAL

武蔵学園正門周辺再整備計画

森の中のレセプション



キャンパスは武蔵野の面影が残る、豊かな緑の中にある。ここに木漏れ日の溢れる広場と人々を迎える守衛棟を計画した。

建物を樹木の枝葉を邪魔しない高さに抑え、建物の存在感を消すためにガラスのファサードとした。その上に一枚の板を乗せ、ミニマルな機能の為の小さな庇を設けた。

この守衛棟は、災害時にキャンパス全体の情報を集める防災拠点としての機能も兼ね備えている。緊急時には人々のよりどころとなる、大きな屋根となる。

木々の中であたたかも一枚の板だけがそこに浮いているように、周囲の緑をその身に取り込み、静かに涼と佇む森の中のレセプションである。

五十嵐 理人
南野 友子



意匠：南野友子 意匠：五十嵐理人 構造：瀬古裕子 設備：水井勇介

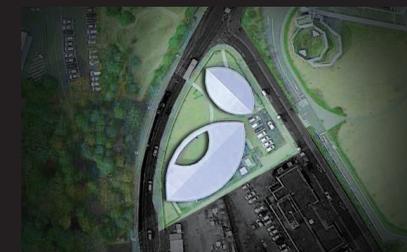


若手設計者特集

REITAKU STUDENT PLAZA HANAMIZUKI

麗澤ステューデントプラザはなみずき

都市のとまり木



コンペの当初から携わり、途中計画変更もあったが一貫して3つのイメージを実現させようと考え続けた。誰もが寛げるとまり木。外部と内部が一体となった広場。学園と地域の交流の場。敷地はキャンパスから道路を挟んだ団地内に属する場所である。ここに樹木が生い茂る学園のアイコンとして木の葉型の厚生施設を計画した。大きな葉（カフェ、多目的ホール、本屋）と小さな葉（コンビニ）は通りに対して開かれ、広場を抱く。それぞれの機能は外部と接し、二枚の葉は外部を取り込みながら二つで一つの空間を形成する。二枚の葉を巡ると変化に富んだ風景に出会う。普段は学生だけでなく近くを通りがかった人がふらっと訪れる場所となり、休日は学園のイベントや地域のイベントに使われ、思い描いたパブリックスペースとなった。

橋川 雅史



意匠：橋川雅史 構造：南部悠 設備：竹島卓磨 電気：島村実季

若手設計者特集 若手設計者の豊かな創造力やエネルギーを、ベテラン設計者との確実な協働体制のなかで高品質な建物として創り上げています

La maison HITOTOKI

ラ メゾン ひととき

豊かな自然に包まれたフレンチレストラン



名古屋市西部の閑静な住宅地に建てられた32席の家庭的なフレンチレストラン。

レストランへのアプローチとなる階段は、ライトアップすることで、来客の期待感を高める演出をほどこした。

豊かな自然の中にある家で、お客様をおもてなしできるように、外装には自然木を使用している。

インテリアは自然木のカーテンが、自然のゆらぎを演出する居心地のよい場をつくった。

熊谷 澄雄



意匠：熊谷澄雄



電気：川口学

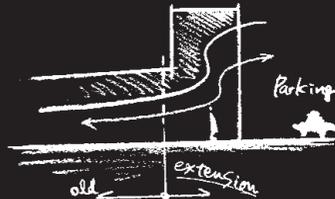


若手設計者特集

EXPASA DANGOZAKA

エクスパサ 談合坂

内と外を緩やかにつなぐS字天井



首都圏から中央自動車道に入って最初のサービスエリアである。休憩エリアの拡張と共に、旅行者の期待・高揚感を高める「旅への入口」としてのリニューアルを目指し、増改修を行った。

人々を迎え入れる幅45mのS字天井は、内と外を緩やかにつなげ人々を施設へ誘う。

日中は日光を取り入れ、人工照明を減らし省エネルギー化を図る。日光はS字天井に反射し、間接照明のような柔らかな光となって差し込む。夜間は天井を照射、幻想的なファサードが浮かび上がる。

平成21年度 照明普及賞
DSA DESIGN AWARD 2012
第46回 SDA賞

森下 恵里



意匠：森下恵里





本門佛立宗佛立会館



大本大道場



大本みろく会館



長明寺本堂

INHERIT JAPANESE TRADITION

日本の伝統の継承

古と新の融合

神社仏閣は古くより日本人の心のよりどころ、崇高な場として長い歴史と伝統を継承してきた。その優美さと繊細さは、日本の誇るべき美学と技術の結晶である。こうした伝統を余すことなく受け継ぎ、さらに最新の技術を取り込み、新しい表現をすることにより、古と新の融合を図っている。

本門佛立宗佛立会館は、京都の街に開かれた現代建築である。明るく開放的なファサード、内部を無柱空間としたフレキシビリティの高い建築、長寿命化技術と耐震技術を駆使した200年建築といった現代的な特徴を持ちつつ、山門、深い軒、透し格子といった日本の伝統美の情感を現代的に表現し、和のこころを継承している。

大本みろく会館は、鉄筋コンクリート造であるが外部は伝統的な寺院の表現をした建築である。内部は木格子、アルミ格子という和の要素で空間を構成し、現代的に表現した。

大本大道場は、鉄骨造でありながら、内外共に伝統木造建築の表現を徹底した建築である。周辺環境との調和を図りながら、日本の木造建築の持つ更新性を鉄骨造においても継承し、長寿命化を図っている。

長明寺本堂は、軸部に金物を使用しない伝統木造建築である。端正で美しい軒廻りは高度な規矩術を駆使し、更に現代的シミュレーションを重ね実現した。また伝統的な木造構法に改良仕口・耐力板壁、そして新たに開発した制震板壁を取り入れ、「匠の技」を独自に進化させている。

池内 匠
柿澤 英之

GLOBAL CHALLENGE

海外における設計市場の開拓



SHIMIZU GLOBAL NETWORK
 シミズ グローバル ネットワーク

1970年代に始まる海外案件の設計活動は、着実に実を結んできており、日系企業による海外展開の生産施設設計だけでなく、中東・東南アジアでは、他のゼネコンに先駆け非日系企業案件の設計実績も残してきた。世界情勢の変化を経て、近年はアジアを中心に、地域の発展の象徴ともいえるプロジェクトに、様々な役割で設計に関与するケースも増えている。

特にシンガポールでは、著名建築家との協働プロジェクトも多く、デザインの本質を理解したエンジニアリング面での設計力は既に発注者の信頼を得ており、社会的な地位を築いている。

いわゆる「デザイン」を含む設計市場の開拓に向けても、精力的に活動が続けている。これまでの非日系企業案件の設計実績から当社の設計力を知った現地企業より設計施工依頼を受け、現在、設計中のプロジェクトがあるインドネシアや突然市場が開けたミャンマー、設計施工の良さを多国籍企業が知り始めたインドなどを設計市場として有望視し、積極的な設計市場の開拓を行っている。

黒田 和彦



Singapore : 268 Orchard Project
 DESIGN ARCHITECT: RAYMOND WOO & ASSOCIATES ARCHITECTS FACADE CONSULTANT : HUGH DUTTON ASSOCIÉS



Singapore : Westgate Project
 DESIGN ARCHITECT: Benoy

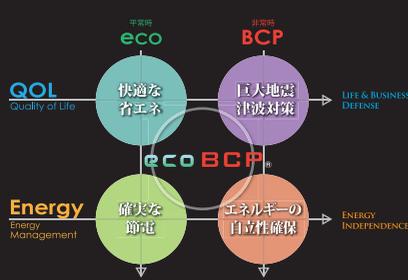


Singapore : Capitol Development Project
 DESIGN ARCHITECT: Richard Meier & Partners Architects



Singapore : Skyhabitat Project
 DESIGN ARCHITECT: Safdie Architects

ecoBCP®
ecoBCPへの取り組み
レジリエントな建物・都市を目指して



非常時の事業継続・エネルギー確保を考慮した上での平常時の省エネ・節電対策と施設・コミュニティづくりのためにecoBCP活動を行っている。

東日本大震災の経験を踏まえ、今後、建物・街区・都市にはさまざまな災害(リスク)に対し、回復力・弾力性のあるレジリエントな対応が求められる。この「ecoBCP」に基づいた建物レベルへの適応は清水建設新本社をはじめ、「生長の家」を含む数棟のオフィスへの導入が決まっている。

複数の建物群(エリアレベル)、さらには街区レベルへと段階的に整備することにより、環境に配慮したレジリエントな都市・社会の実現に向け活動していく。

前林 和彦
河村 真

「総合防災診断システム」

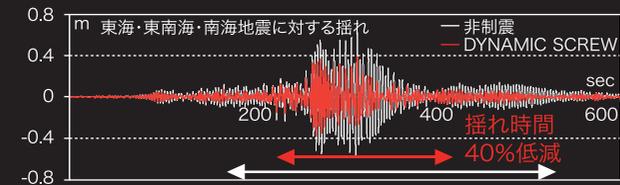
立地環境に関する事前評価と、施設の現地調査を総合的に診断するシステムで、地震・津波・液状化・火災・避難などの防災性能向上に貢献する。



現地調査

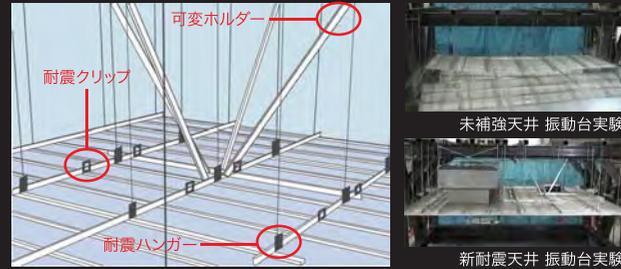
「ダイナミックスクリュー」長周期地震動対策

回転慣性質量ダンパーの導入により、地震力を回転慣性エネルギーに変換し、巨大地震の揺れを効率的に低減することができる。



「新耐震天井システム」

中地震時においても機能を維持する新天井耐震システムの開発により、大地震時の天井の落下防止を図り、安全性を確保する。



- 高耐震性能**
20kg/m² 1Gで機能維持
- ローコスト**
※30%コストダウン
- 使いやすさ**
設備用空間を確保

※一般的耐震天井商品の材工工事費比較

電力需要の抑制とピーク時節電24%、省エネルギー30%(夏季)を達成した。節電ナビゲーションにより実験・研究電力も削減できた。



サプライサイド	デマンドサイド
<ul style="list-style-type: none"> 建物設備空調(空調、照明) 節電ナビゲーション(実験、研究機械) 	<ul style="list-style-type: none"> コジェネレーション(25kW×2台) 太陽光発電 20kW(蓄電池 144kWh)
エネルギーのスマート利用:エネルギーのデマンド(需要)とサプライ(供給)の最適制御	
シミズスマートBEMS:建物エネルギー・マネジメントシステム	



3つのつながり



環境性能と非常時の機能確保を両立する シミズ ecoBCP



- 夢のある提案**
 - まちのあるべき姿＝理念の提示
 - 設計本部、ランドスケープデザイナー等との協働による魅力ある地区の未来像の表現
- 魅せるプレゼン**
 - 開発推進本部、プレゼンテーションセンター等との連携による、権利者の心に訴える戦略的プレゼンテーション
- 提案を支えるリアリティ**
 - 事業性や都市計画を考慮したプログラム設定
 - 各種保有技術をはじめ、シミズの総合力を生かした、高品質の提案

都市環境の創出/まちづくりへの貢献

CAMPUS PROPOSAL
キャンパス プロポーザル

「つながり」を大切に「学縁」・キャンパス

グローバル化や少子高齢化、情報化といった社会環境の中で、「3つのつながり」を大切にしたい計画を心掛けている。「人とのつながり:コミュニケーションを中心とした相互作用する空間」・「キャンパスのつながり:既存、未来のキャンパスをつなぐこと」・「未来へのつながり:将来の変化に対応できる空間づくり」に基づく学縁キャンパスづくりが重要と考えている。更に東日本大震災以降、平常時の節電、省エネ(eco)と非常時のBCP(事業継続性)を考慮した安心、安全な建物づくりが必須となっている。様々な「かんきょう」を考慮し、時代を超えた教育ニーズに対応した学校づくりを推進し、永く愛され長く使い続けられる教育施設を残していきたいと考えている。

教育文化計画室 林 寛三郎

AREA A REDEVELOPMENT PROJECT
A地区再開発事業 事業協力者選定コンペ

地区の未来を描く

完成までに長い期間を要する市街地再開発事業の「事業協力者」には、権利者と二人三脚で事業を推進する熱意と専門性が求められる。同時に、地区の未来像や価値観を権利者と共有することが重要で、権利者の「夢」を具現化する提案力が求められる。プロポーザル本部では、開発推進本部、設計本部、環境・技術ソリューション本部等との密な連携による提案活動に取り組んでおり、本提案でも再開発事業による地区の未来像をリアリティある表現で描き出し、「夢」の実現に向け多くの権利者の共感を得た。今後も権利者及び地域とともに新たなまちづくりに取り組んでいく。

地域開発計画室 山本 茂
都市開発計画室 大石 裕也

COMPETITION
2011年度第25回建築環境デザインコンペ:「さか・宿り」 優秀賞

2011年の課題は「場所に向かい合うコミュニティ施設」。東日本大震災後にテーマは発表され、社会がギズナの大切さを強く感じていた。我々は生活を支えあうことによってコミュニティが深まる施設を目指した。日本は人口減少・高齢化の社会構造を抱え、国土の7割が平地ではない地形の特徴を持っている。あえて不便な坂に着目し、「動線である坂をコミュニティスペースに変える提案」を行った。まちのストラクチャーとして、勾配の緩い「オンナ坂」で大らかに繋ぎ、動線として整備した。勾配の急な「オトコ坂」には、その勾配や日当たりといった各々の場所の特徴を利用して、支え合いの生活の仕掛けできるようにデザインした。増加している空き家は解体しつつ、その部材を利用して皆で坂を協力してつくっていく、といった風景を描いた。このまちには、生活を支え合うギズナの深いコミュニティが坂に宿っている。(今井 宏 リーダー)

メンバー 意匠:小林央和、登坂壮人、石川慎一郎、南野友子、
 設備:森田英樹、構造:鬼塚由佳



2012年度日本建築学会技術部門設計競技:「みんなテク(みんなで建築)」 最優秀賞
— ソーシャル・デザイン・プラットフォームによる小学校の再構築 —

日本建築学会が毎年実施しているアイデアコンペである。今年は情報システム委員会の主催で「デジタルデザイン環境によって可能になる建築・都市」というテーマが与えられた。社会的な課題を各自設定し、それに応える建築や都市のあり方についてデジタルなデザインによる斬新で有意義な解決方法を求める、というものである。極めて抽象的なテーマであったが、議論の中で浮かび上がったのは、建築デザインに「初音ミク」のコンセプトを持ち込むことができるか?というテーマだった。デジタルデザイン環境が我々建築の世界に及ぼすのは、単なるツールの革新性だけではなく、デザインプロセスのコミュニケーションの革新性にあることを、小学生が自分たちの校舎を大人たちと一緒にリノベーションするプロセスを通して表現した。(秋山 茂 リーダー)

メンバー 秋山茂、長阪太郎、高瀬大樹、井川博英、瀬尾剛史、長澤怜、朴敬熙、小倉裕之、森田英樹、東山恒一、三浦大作、矢川明弘、水落秀木、上田淳、吉田郁夫、小田島範幸、横田樹広(技術研究所)



CG VISUALIZATION
建築空間イメージの可視化

パース表現手法の探求

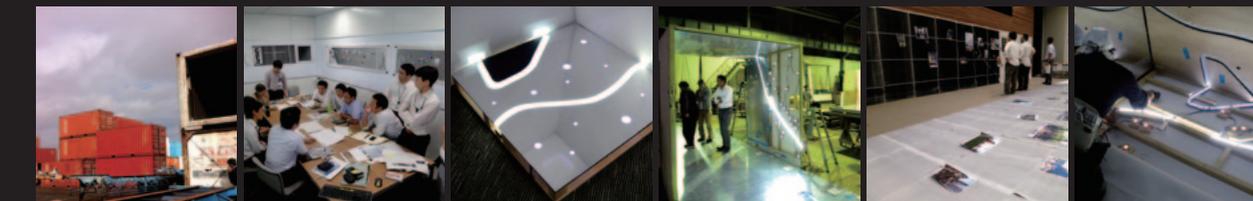


Basilica di St.Andrea di Mantova

建築パースの技法のひとつとして、CGや手描きパースがあるが、どちらもその表現方法は、制作者の感性に因るところが大きい。プレゼンテーションセンターでは、高度なパース表現の探求をめざし、永年のノウハウの蓄積の上に、制作者個々のテクニック、腕を磨くために国内外のパースコンペに応募している。今回掲載したのは、過去に応募した作品の一部である。世界のさまざまなアーティストたちと競い、いくつかの賞を受賞してきた。建築パースの表現技法は日々進歩しているが、いかに見る人に訴えかける一枚の絵を作り込むことができるか、すべてそこにかかっている。

加藤 亘

- 2010/JARA大賞公募展応募作品
島根県立美術館:加藤 亮次
 - 2012/AIP27応募作品
Floating Cenotaphs for TSU-NAMI Victims:里 悦子 (Award of Excellence)
 - 2010/AIP25応募作品
S-project:里 悦子 (Award of Excellence)
 - 2010/JARA大賞公募展応募作品
東京都庭園美術館:渡邊 美土里(選外佳作)
 - 2012/AIP27応募作品
Shell Structure:加藤 亮次 (ASAI Members' Choice Award)
- ※AIP:アメリカ建築イラストレータ協会主催建築パース国際コンペ
 ※JARA大賞公募展日本レンダラー協会主催の建築パース国際コンペ



stream DEW CONTAINER PROJECT
stream DEW コンテナ展

東京万華鏡



stream DEW委員会では、メンバーの自由かつ主体的な提案により、様々な企画を行っている。2012年の活動は、東京デザイナーズウィークのコンテナ展への出展を軸として行った。企画・設計・管理・運営に至るすべてのプロセスを23名の若手中心のメンバーで取りまとめた。

コンテナ展のタイトルは「東京万華鏡」。東京という都市を無限に広がる万華鏡の手法を用いて表現。その中にこれまで清水建設が生み出した建築が、人々の生活に溶け込み、どのようなワンシーンを描いているのかを示す写真を展示した。

「私たちの創る建築は、思い出の風景となっているだろうか」社会の中でシミズの作品がどのように写っているかの問いかけである。と同時に、無限に広がる空間に立ち、作品と対峙する時、自らが建築にどう向き合うべきかを投げかけるものである。

来場者からの様々な声を現地で聞くにつれ、反響の大きさを知った。我々の思いが少しでも多くの人に届き、シミズの建築がより身近な存在になる様、これからも活動を続けていく。

stream DEW委員一同



清水建設本社
 建築主：清水建設株式会社
 主要用途：事務所
 敷地面積：2,728.11㎡
 敷地面積：5,710.28㎡
 延床面積：2,170.36㎡
 延床面積：51,355.84㎡
 構造：免震構造・RC造一部S造
 規模：地上2階・地下3階・塔屋1階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都中央区京橋2-16-1



ヒロセ電機横浜センター
 建築主：ヒロセ電機株式会社
 主要用途：研究所
 敷地面積：2,728.11㎡
 敷地面積：5,710.28㎡
 延床面積：2,170.36㎡
 延床面積：51,355.84㎡
 構造：免震構造・RC造一部S造
 規模：地上2階・地下3階・塔屋1階
 竣工年：2012年
 所在地：神奈川県横浜市都筑区中川中央2-6-3



グランドメゾン百道浜オーシャンアンドフォレスト
 建築主：積水ハウス株式会社 福岡マンション事業部
 主要用途：共同住宅
 敷地面積：1,131.34㎡
 敷地面積：4,774.21㎡
 延床面積：3,020.49㎡
 延床面積：36,719.35㎡
 構造：RC造
 規模：地上29階・地下1階・塔屋1階
 竣工年：2010年
 所在地：福岡県福岡市早良区百道浜3-901



母と子の上田病院¹⁾
 建築主：医療法人社団直田会
 主要用途：病院(産婦人科・小児科)
 敷地面積：1,131.34㎡
 敷地面積：4,774.21㎡
 延床面積：3,020.49㎡
 延床面積：36,719.35㎡
 構造：RC造
 規模：地上7階
 竣工年：2012年
 所在地：兵庫県神戸市中央区国香通1-1-4



東京木工場コラボレーションスタジオ³⁾
 建築主：東京木工場
 主要用途：ショールーム
 敷地面積：7,983㎡
 敷地面積：31,675.7㎡
 延床面積：936,000㎡
 構造：RC造
 規模：地上3階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都江東区木場2-15-3



本門佛立宗佛立会館
 建築主：宗教法人本門佛立宗
 主要用途：事務所・コミュニケーションプラザ
 敷地面積：2,843.54㎡
 敷地面積：1,068.61㎡
 延床面積：3,394.08㎡
 構造：RC造一部S造
 規模：地上4階・地下1階
 竣工年：2012年
 所在地：京都府京都市上京区御通一条上る東堅町110-1他



三井住友呉服橋ビル
 建築主：株式会社三井住友銀行
 主要用途：事務所・店舗
 敷地面積：1,306.28㎡
 敷地面積：1,130.37㎡
 延床面積：14,360.06㎡
 構造：SRC造・S造(CFT)・RC造+付加制震
 規模：地上13階・地下3階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都中央区八重洲1-3-3



製粉ミュージアム
 建築主：株式会社日清製粉グループ本社
 主要用途：展示施設(工場内)
 敷地面積：4,891㎡
 敷地面積：1,076.05㎡(本館:134.53㎡,新館:941.52㎡)
 延床面積：1,592.67㎡(本館:257.98㎡,新館:1,271.69㎡)
 構造：[本館]木造(免震構造)一部S造 [新館]RC造
 規模：[本館]地上2階 [新館]地上3階
 竣工年：2012年
 所在地：群馬県館林市栗町6-1



エステート南砂町¹⁾
 建築主：個人
 主要用途：共同住宅
 敷地面積：387.59㎡
 敷地面積：226.90㎡
 延床面積：711.45㎡
 構造：RC造
 規模：地上4階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都江東区南砂町



館山ヶアセンター夢くらぶ
 建築主：医療法人社団直田会
 主要用途：介護老人保健施設
 敷地面積：8,211.75㎡
 敷地面積：6,266.21㎡
 延床面積：597.87㎡
 構造：木造
 規模：地上1階
 竣工年：2012年
 所在地：千葉県館山市山本392-1



武蔵学園正門周辺再整備計画
 建築主：学校法人根津育英会
 主要用途：守衛所
 敷地面積：70,943㎡
 敷地面積：45.10㎡
 延床面積：33.75㎡
 構造：S造
 規模：地上1階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都練馬区豊玉上1-26-1



大本みろく会館・大本道場
 建築主：宗教法人大本
 主要用途：宗教施設
 敷地面積：31,181.03㎡
 敷地面積：1,845.50㎡(大本みろく会館)
 敷地面積：676.73㎡(大本道場)
 延床面積：3,963.87㎡(大本みろく会館)
 延床面積：556.90㎡(大本道場)
 構造：[大本みろく会館]RC造一部S造 [大本道場]S造
 規模：[大本みろく会館]地上4階・地下1階 [大本道場]地上1階
 竣工年：2011年
 所在地：京都府亀岡市荒塚町内丸1



新橋アイマークビル¹⁾
 建築主：清水建設株式会社
 主要用途：事務所・店舗
 敷地面積：1,138.19㎡
 敷地面積：1,018.05㎡
 延床面積：9,104.66㎡
 構造：S造
 規模：地上12階・塔屋1階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都港区新橋2-6-2



立業社ビル
 建築主：株式会社立業社
 主要用途：事務所
 敷地面積：1,490.44㎡
 敷地面積：808.37㎡
 延床面積：2,267.11㎡
 構造：S造
 規模：地上4階
 竣工年：2010年
 所在地：富山県富山市黒崎125



浜ニビル
 建築主：佐藤管理株式会社
 主要用途：事務所・店舗
 敷地面積：199.61㎡
 敷地面積：158.37㎡
 延床面積：1,396.87㎡
 構造：S造
 規模：地上10階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都港区浜松町2-1-12



武蔵学園記念室
 建築主：学校法人根津育英会
 主要用途：記念室
 敷地面積：70,943㎡
 敷地面積：4,902.83㎡
 延床面積：925.83㎡
 延床面積：1,302.46㎡
 構造：RC造
 規模：地上2階
 竣工年：2011年
 所在地：東京都練馬区豊玉上1-26-1



麗澤ステューデントプラザはなみずき
 建築主：学校法人廣地学園
 主要用途：大学厚生施設
 敷地面積：4,902.83㎡
 敷地面積：925.08㎡
 延床面積：758.73㎡
 構造：S造
 規模：地上1階
 竣工年：2012年
 所在地：千葉県柏市光ヶ丘団地1768-34-47



長明寺本堂
 建築主：日照山長明寺
 主要用途：宗教施設
 敷地面積：2,764.91㎡
 敷地面積：330.49㎡
 延床面積：260.18㎡
 構造：木造
 規模：地上1階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都台東区谷中5-10-10



ヤマタネビル新館¹⁾
 建築主：株式会社ヤマタネ
 主要用途：事務所
 敷地面積：3,853.75㎡
 敷地面積：1,562.71㎡
 延床面積：12,208.42㎡
 構造：S造
 規模：地上8階・塔屋1階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都江東区越中島3-14



南山大学名古屋キャンパスR棟
 建築主：学校法人南山学園
 主要用途：大学
 敷地面積：118,001.11㎡
 敷地面積：2,403.25㎡
 延床面積：12,415.65㎡
 構造：SRC造一部RC造・S造
 規模：地上7階・地下1階
 竣工年：2011年
 所在地：愛知県名古屋市昭和区山里町18



原宿 神宮の森¹⁾
 建築主：神宮の森株式会社
 主要用途：貸し会議室・事務所
 敷地面積：416.46㎡
 敷地面積：294.04㎡
 延床面積：1,497.46㎡
 構造：S造
 規模：地上7階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都渋谷区神宮前1-14-34



フラクラシア東京ステーション
 建築主：株式会社マックスパートナーズ
 主要用途：貸し会議室
 敷地面積：2,000㎡(5階・6階)
 敷地面積：292.65㎡
 延床面積：489.58㎡
 構造：S造一部SRC造
 規模：地上29階・地下3階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都千代田区大手町2-6-1 朝日生命ビル5階・6階



ラメゾン ひととき⁴⁾
 建築主：株式会社サウスビル
 主要用途：レストラン
 敷地面積：992.71㎡
 敷地面積：292.65㎡
 延床面積：489.58㎡
 構造：S造
 規模：地上2階
 竣工年：2012年
 所在地：愛知県名古屋市中区南山町20-8

ND2プロジェクト
 主要用途：事務所(データセンター)
 構造：S造(CFT・基礎免震構造+上下制振)
 規模：地上4階・地下1階・塔屋1階
 竣工年：2012年



アステラス製薬高島事業場厚生棟¹⁾
 建築主：アステラス製薬株式会社
 主要用途：厚生施設
 敷地面積：43,859.80㎡
 敷地面積：3,015.66㎡
 延床面積：4,249.90㎡
 構造：S造
 規模：地上2階
 竣工年：2012年
 所在地：大阪府大阪市淀川区加島2-1-6



サレジオンシスターズ 大分聖ヨゼフ 修道院・聖堂
 建築主：宗教法人カトリック扶助者聖母会
 主要用途：教会(修道院・聖堂)
 敷地面積：19,903.86㎡
 敷地面積：3,270.35㎡
 延床面積：919.92㎡
 延床面積：2,104.75㎡
 構造：RC造
 規模：地上3階
 竣工年：2012年
 所在地：大分県大分市大字城原2600



五島美術館 改修¹⁾
 建築主：五島美術館
 主要用途：美術館
 敷地面積：1,858.84㎡(本館)
 敷地面積：1,989.14㎡(本館)
 延床面積：2,162.43㎡(ホテル)
 構造：RC造
 規模：地上2階・地下1階
 竣工年：2012年
 所在地：東京都世田谷区上野毛3-9-25



レム新大阪²⁾
 建築主：阪急神ホテルズ
 主要用途：ホテル
 敷地面積：4,150㎡
 敷地面積：3,167㎡
 延床面積：35,005㎡(新大阪阪急ビル)
 延床面積：3,833.81㎡(ホテル)
 構造：S造一部SRC造
 規模：地上17階・塔屋2階
 竣工年：2012年
 所在地：大阪府大阪市淀川区宮原1-1-1



エクスパ-ーサ 談合坂¹⁾
 建築主：中日本高速道路株式会社八王子支社
 主要用途：高速道路内休憩施設
 敷地面積：21,603.94㎡
 敷地面積：3,833.81㎡
 延床面積：3,800.71㎡
 構造：S造
 規模：地上2階
 竣工年：2011年
 所在地：山梨県上野原市野田尻710

*1 他社協働(設計:清水建設)

- 新橋アイマークビル**
インテリアデザイン(エントランスホール):フィールドフォー・デザインオフィス
- ヤマタネビル新館**
インテリアデザイン(エントランスホール):フィールドフォー・デザインオフィス
ランドスケープデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス
- アステラス製薬 加島事業場 厚生棟**
インテリアデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス
ランドスケープデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス
- エステート南砂町**
サインデザイン:エモーショナル・スペースデザイン
- 原宿 神宮の森**
アプローチ部分デザイン:フィールドフォー・デザインオフィス
- 五島美術館**
総合監修:東京急行電鉄
デザイン監修:堀越英嗣 ARCHITECT 5
展示監修:五島美術館学芸部
展示設計:丹青ディスプレイ
- 母と子の上田病院**
インテリアデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス
ランドスケープデザイン:花康・やまぼうし
壁画緑化:四緑園
- エクスパーク 談合坂**
インテリアデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス
- CDプロジェクト**
インテリアデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス
ランドスケープデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス

*2 インテリアデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス
設計:清水建設・日建設計

*3 インテリアデザイン:フィールドフォー・デザインオフィス

*4 設計:清水建設・有田佳生建築設計事務所

委員長 井川 博英
副委員長 今井 宏
委員 石川美紗子
市原 裕之
加藤 万貴
菅野 英幸
熊谷 澄雄
小林 靖
佐藤 琢磨
末森 憲義
高橋 晃一
田中 裕伸
谷 福永 唯行
藤井 誠
堀 哲也
松尾 昌一
水島 晶子
水島 一彦
南野 友子
村上又三郎
山田 航司
渡辺 高史

事務局 吉田 郁夫



発行日 2012年12月
編集・発行 清水建設株式会社
／設計・プロポーザル統括
〒104-8370 中央区京橋2-16-1
03-3561-1111(代)
編集事務局 設計・プロポーザル統括
企画管理部
印刷所 (株)ピーディーシステム
年1回発行予定

非売品

全国設計・プロポーザル系組織図 (2012.12月現在)

